

JR東労組盛岡

No.114

2025年 3月 11日

東日本旅客鉄道
労働組合
盛岡地方本部

〒020-0045

盛岡市盛岡駅西通二丁目 16番 31号

発行人 大村 博行

編集人 情 宣 部

NTT 019-623-1011 FAX 019-624-0157

JR 033-2238・2239 FAX 033-2230

「稼ぐことにこだわる」体質では新幹線の安全は守れない！「責任追及」「運行優先」体質から「原因究明へ」の安全文化を再確立し、「安全第一」の新幹線職場をつくりだそう！

3月6日11時30分頃、上野～大宮間走行中のはやぶさ・こまち21号において、10号車と11号車が列車分離する極めて重大な事象が発生した。今回の列車分離に対して運輸安全委員会は、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる「重大インシデント」であると認定した。

幸いにもお客さまや乗務員にケガはなかったが、昨年9月19日にも、古川～仙台間において約315km/hで走行中の新幹線が分離するという類似事象が発生している。わずか半年の間に列車分離が立て続けに発生したことは極めて異常であり、新幹線の安全が危機的状況に陥っている。改めて JR 東労組新幹線協議会は、会社との協議をつくりだし、徹底した原因究明を求め、「安全第一」の職場風土をつくり出していく！

昨年9月の列車分離後、JR 東労組新幹線協議会は幹本申第2号「東北新幹線で発生した列車分離の原因究明と対策の実施を求める緊急申し入れ」を行い、徹底した原因究明と再発防止を求めて団体交渉を行った。会社は列車分離について「あってはならない事象」との認識を述べた。一方で、私たちの「原因が判明していない中での併合運転継続は問題がある」との主張に対し、「車両等の状況から他編成で同様の事象が発生する可能性は低い」として併合運転継続の判断に問題は無いとの回答を繰り返した。私たちは当時、「発生事象に対し、お客さまや現場と会社との間に認識の乖離がある」ことを席上で強く訴えてきた。

しかし、2月19日にパンタグラフのスリ板破損と台車に異常を知らせる表示の点灯によって2度も運転見合わせとなったことについて、東北本部長は謝罪会見の中で「偶発的に2件たまたま重なったと思う」と述べた。またもや「たまたま」と会見したことに対し、現場からは「またか」「事故・事象を重く受け止めているとは思えない」「現場の感覚と大きな乖離がある」と怒りと不信・疑念の声が上がった。

2023年12月に新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」との掲示が出されて以降、新幹線は重大な事故・事象が相次いでいる。先述の事象の他にも、2024年1月には上野～大宮間での架線垂下による停電事故と復旧作業中の感電事故、3月には、滑走によって郡山駅の分岐器を大幅に速度超過、お客さま1名がケガされるとともに停止限界標識を超えて出発進路を冒進した。11月には、くりこま高原～ノ閘間でパンタグラフのスリ板破損が発生している。2月28日には山形新幹線内で停電により2時間も運転見合わせとなった。これだけの相次ぐ事故・事象は単なる偶然とは思えない。

原因が明らかになっていない事象も多い中、職場では事象の概要や対策などがタブレット配信されるものの、社員周知や教育が不十分との声がある。会社は「安全は経営のトッププライオリティ」と言うが、原因究明よりも「ハザードの除去」だけに終始してはいないか。ハザードさえ除去すれば対策は完了したと言わんばかりの姿勢だが、事象に至るまでに、現場から「悲鳴」が発信されてはいなかったか。「予算がつかない」「要員がいない」と現場にあきらめ感が蔓延してはいないか。行き過ぎた「融合と連携」によって疲弊してはいないか。運行優先体質や「稼ぐ」方針によって何が起きているのか、背後要因を経営陣は直視すべきだ。

今こそ、原因究明を通じた教育を通じて、予防保全できる風土づくりと人材育成が必要だ。そのためには「稼ぐ」という意識ではなく、まずは「原因究明を通じた鉄道の安全」を第一にする風土の確立が必要である。

そして、「ハザードの除去」という考え方の行き着く先は労務管理の強化である。現在、「被害者が加害者にされた！JR 東日本武蔵小金井駅暴行事件」の個人訴訟を全面支援しているが、1月31日の訴訟以降、JR 東労組には4件もの告発があり、セクハラ・パワハラなどの異常な職場実態が明らかになった。職場では「事情聴取」「日勤教育」「パワハラ」と責任追及と体質が蔓延している。宇都宮運輸区の組合員は、速度超過の事象に対し、パワハラと言える懲罰の日勤教育や決意文の書き直し、「運転士を一回クビになったんだから」とまで暴言を吐かれ、病気となり退職を余儀なくされ、未だに復職できていない。ホワイト企業などとは程遠い企業体質になってしまった。

だからこそ私たちは企業体質を是正し、職場の中に「責任追及から原因究明へ」の安全文化を再確立しなければならない！今も職場では、大混乱の中で多くのお客さまへの謝罪やご案内に奔走している仲間、臨時ダイヤに対応する仲間、そして「二度と事象を起こすまい」と懸命に原因究明している仲間がいる。JR 東労組新幹線協議会は、職場の仲間の声を基礎に、「命」を最大の価値基軸とした「安全第一」の職場風土をつくり出していく！

2025年 3月 7日

東日本旅客鉄道労働組合

新幹線協議会

「稼ぐことにこだわる」体質では新幹線の安全は守れない！
「責任追及」「運行優先」体質から「原因究明へ」の安全文化を
再確立し、「安全第一」の新幹線職場をつくりだそう！

責任追及から原因究明へ！！

安全文化の再確立を！！

